

災害防止策を確認

宮坂建設工業

宮坂建設工業（帯広、宮坂寿文社長）は26日、帯広市内の北海道ホテルで「特別安全災害防止協議会」を開いた。全道6地区の災害防止に向けた取り組みなどを確認した。

同社は今年度から安全衛



あいさつする宮坂社長
（中央）

生の充実を図るため、十勝をはじめ道央、旭川など6地区に災害防止協議会を開設している。この日は同社幹部と協議会役員ら45人が出席した。

初めに宮坂社長が「宮坂の現場では一人たりともけがをさせない。社員、関係者に対する指導を徹底し、安全には安全をという気持ちで取り組んでいきたい」とあいさつ。その後、各地区の代表者が災害防止活動の取り組み状況について報告した。

十勝地区災害防止協議会の山口富仁会長は「安全パトロールの後には協力業者と意見交換し、安全衛生管理の向上に努めた」と取り組みを報告。今後の課題として、若手技術者の指導・育成や増加傾向にある年配者の労務管理を挙げた。

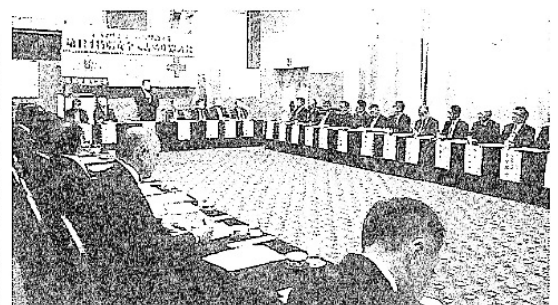
（中島佑斗）

下半期ゼロ災害へ 特別防災協議会

宮坂建設工業

【帯広】宮坂建設工業（本社・帯広）は26日、帯広市内の北海道ホテルで特別安全災害防止協議会を開いた。写真。全道6地区で組織している災害防止協議会の役員や、同社幹部が集まり、各地で展開している安全対策を報告し、下半期の活動について協議した。

同社は2017年度から災害防止協議会を道央、旭川、苫室、函館、釧路、十勝の全道6地区に設立し、安全教育やパトロールを通して施工現場の災害防止に取り組んでいる。



宮坂寿文社長は「企業は安全なくして存続しなく、品質なくして企業拡大はない。現場に入った何人たりともけがさせずに無事に家庭に戻すという考えだ」と話し、工事の追い込みの労働災害や交通事故を注意を払うよう呼び掛けた。

各地区の報告では、パトロールや特別教育の実施状況を発表し、職人の高齢化や担い手の確保、働き方改革など地域で抱える課題について話し合った。

宮坂建設工業が災害防止協議会

下期に向けての活動議論

上期の成果、課題踏まえ



安全と品質の確保に向け協力を呼びかける宮坂社長

した。

同社は、本年

【帯広発】宮坂建設工業

㈱（帯広、宮坂寿文社長）

は二十六日、帯広市内の北海道ホテルで第一回特別安全災害防止協議会を開催した。宮坂社長をはじめとする幹部職員と全道六地区の災害防止協議会役員など総勢四十五人が出席。各地区の上期における災害防止活動の取組状況や成果、課題について報告した上で、下期に向けての活動等を協議

度から全道の主要六地区に災害防止協議会を設立。各協議会では同社の安全施策に基づき、積極的な災害防止活動を展開している。

冒頭、あいさつに立った宮坂社長は「企業は安全なくして存続はできないし、品質なくして企業拡大はない」と強調。安全に関して

は「わが社の現場では一人たりともケガをさせない、無事に現場を終え家庭に戻すという考えにしている」とし、安全作業に関する参加者の積極的な意見を求めた。

続いて、全道六地区の協

議会と本社・札幌支社の担当者が、災害防止活動の取組状況や成果、課題について報告。地方からは、安全パトロールや職長教育などによって、意識の高揚が図られていることが説明された。一方、課題に関しては、働き方改革への対応や、担い手の確保・育成などが挙げられた。

担い手の確保・育成の課題に関し、宮坂社長は「わが社できちんと働いていただけという確約があるなら、その分の経費は支払おうと考えている。今後は、年間数千万円単位で経費を用意しないと、人はつなぎ止められない」との考えを示した。

このあと、加藤兆基専務執行役員が「時間外労働の適正化に向けた取組」について説明したほか、防災安全本部の巻田卓雄室長が安全講話を実施。災害防止に向けた安全作業の徹底に向け、参加者の意識の高揚を図った。